大賞

一枚だけのツーショット

兵庫県　中田千晶

私の父は、私がこの世に誕生して 1 ヶ月もたたないうちにガンで亡くなった。つまり、私と父がこの世に一緒にいられたのは、たったの 30 日間ということになる。それから 15 年あまり、私は父のいない生活を送ってきた。

ある日、記憶にない父を知りたくなった私は本棚から 10 数冊のアルバムを取り出した。そっと開くと、小さい頃の兄の写真がたくさんあった。写真の一つ一つに父がコメントを付けていた。無邪気にカメラに向かって笑顔を見せている兄、それを愛おしそうに見ている父。家族 3 人で楽しそうにお弁当を食べている写真も。みんながすごく幸せそうに笑っていた。1 ページ、もう 1 ページ、何度めくってもほとんどは、父と兄との写真。兄がうらやましかった。

そして、次のページをめくったとたん、私の目に飛びこんできたのは……私と父とのツーショットだった。くすんだ肌の色をした父が病室のベッドに寝たまま幼い私を抱きかかえている。食べる気力もほとんどなかったという父が私を笑顔で抱きかかえている。『お父さんと、私だ！』病気で苦しみながらも、笑顔を見せている父がいた。その、たった 1 枚の写真。父からの愛情が伝わってきた。

お父さん、知っていますか。あなたに向かって『お父さん』と一度も言えることが出来なかった悲しみを。親戚から「お父さんに、似てきたね。」と言われる嬉しさを。お父さんがいないことで泣いたあの日のことを。だけど、もう泣きません。このたった 1 枚の写真が、私を心強くしてくれているから。私とお父さんが親子だってことを証明してくれているから。ありがとう、お父さん。お父さんがいないことで悲しんだこともあったけれど、それでも私はお父さんの子どもで良かったよ。ありがとう。

私は、亡くなった父の分もしっかりと生きる。この写真を心の支えにして──。

Copyright(C) THE JAPAN WOOL TEXTILE CO., Ltd. All Right Reserved.